

令和3年度 病害虫発生予察情報(美濃地域) 6月予報

【 水稲 】

いもち病 (葉いもち)

箱施薬を実施していないほ場では、葉いもち初発生 (6月3半旬頃) の7~10日前に粒剤施用を行ってください。
なお、補植苗はいもち病の発生源となるため、すみやかに除去をしてください。

【 かき 】

カキノヘタムシガ (カキミガ)

成虫の見取り調査では、本年の発蛾最盛期は5月17日と平年 (5月21日) よりやや早く、発生量は樹あたり1.4頭 (平年2.0頭) とやや少ない状況でした。防除適期は発蛾最盛期から7~14日後で、被害が多いほ場ではさらに7~10日後に追加防除を実施してください。

○主な病害虫の発生時期及び防除時期 (6月)

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬	
水稲	生育(コシヒカリ)								・田植え 5/10 (農業技術センター)
	生育(ハツシモ)			< 田 植 え >					・田植え 6/10予定(農業技術センター)
	葉 い も ち	やや多			< 初 発 生 >				・箱施薬を実施する。
	縞 葉 枯 病	やや少			< 初 発 生 >				・ 縞葉枯病 感受性品種では、縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの防除を徹底する。
	ヒメトビウンカ	多		< 第1世代成虫 >					
	ニカメイガ	少			< 越冬世代成虫 >				
	防 除 適 期			~ ■葉いもち・ヒメトビ・ニカメイガ ▲葉いもち・ヒメトビ					・ ヒメトビウンカ 箱施薬を行わなかったほ場では第1世代成虫最盛期に本田防除を行う。
かき	生育(富有)	並							・開花最盛期 5/18 (平年 5/20 : 農業技術センター)
	ハマキムシ類	並						< 第2世代成虫 >	・ ハマキムシ類 幼虫発生初期の防除を徹底する。
	カキノヘタムシガ	並	< 第1世代幼虫 >						
	フジコナカイガラムシ	並						< 第1世代1齢幼虫 >	・ フジコナカイガラムシ 虫体に薬液が到達するように丁寧に散布を行う。
	防 除 適 期		▲カキノヘタムシガ				フジコナカイガラムシ ▲		
なし	黒 星 病	やや多			< 果実発病最盛期 >				・ 黒星病 発病が散見されるほ場では確実に防除を実施する。
	防 除 適 期		黒星病 ▲ ~						
もも	せん孔細菌病	多			< 発病拡大期 >				・ せん孔細菌病 春型枝病斑が確認される場合は摘果時までに取り除く。
	ナシヒメシンクイ	やや少			< 第1世代成虫 >				・ ナシヒメシンクイ 新梢伸長期 (4月下旬~6月下旬) の防除に重点をおく(早生)。
	防 除 適 期		▲せん孔細菌病 ナシヒメシンクイ ▲						
果樹	カメムシ類	やや少	< 越 冬 世 代 成 虫 >						・夜温が高い場合、突発的にはほ場へ飛来する恐れがあるので、注意する。
	防 除 適 期								
茶	生育(やぶきた:池田)	やや早				< 二番摘採期 >			
	生育(やぶきた:白川)	並					< 二番摘採期 >		
	岐阜 濃	ハマキムシ類	並			< 第1世代成虫 >			・幼虫発生初期の防除を徹底する。
	濃	チャノホソガ	やや少	< 第1世代成虫 >					・ チャノホソガ 発蛾最盛期と萌芽~開葉期が合致すると被害がでるため、1~2葉期に防除を実施する。
	防 除 適 期		▲チャノホソガ				▲ハマキムシ類		
	中 濃	ハマキムシ類	やや多			< 第1世代幼虫 >			
	チャノホソガ	少					< 第1世代成虫 >		
	防 除 適 期								
野菜	コ ナ ガ	並							・同一系統薬剤の連用は避ける (薬剤抵抗性の発達)。
	アブラムシ類	少							・ アブラムシ類 定植時に粒剤を施用する。
	防 除 適 期								

		病害虫名	発生量	発生時期及び防除適期	防除上の注意事項
施設野菜	トマト	灰色かび病	少	調査ほ場では発病が認められない。曇天が続く場合は発生すると予測される。(発病果率 0%)	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期の防除を徹底する。 施設内が多湿とにならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。 葉かび病 薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。 うどんこ病 過度の乾燥は発生を助長するため、注意する。
		葉かび病	少	調査ほ場では発病は認められない。曇天が続く場合は発生すると予測される。(発病小葉率 0%)	
	キュウリ	べと病	少	調査ほ場では発病が認められない。梅雨時期となるため、今後の発生に注意する。(発病葉率 0%)	
		褐斑病	少	調査ほ場では発病は認められない。罹病品種では今後の発生に注意する。(発病葉率 0%)	
		うどんこ病	少	調査ほ場では発病は認められる。引き続き発生に注意する。(発病葉率 0.2%)	

注1) ▲、▲～▲：防除適期 ■：箱施薬

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

カキノヘタムシガ (カキミガ)

カキノヘタムシガは芽付近に産卵し、孵化した幼虫は芽を食害したのち、ヘタ部や果梗から果実内に食入します。幼虫が果実内部に食入すると薬液が届かないため、食入するまでに防除することが重要です。本年の発蛾最盛期は5月17日と平年よりやや早く、防除適期は5月下旬～6月上旬頃と予想されます。

なお、防除を実施する際は、[病害虫情報第3号 \(カキノヘタムシガに注意\)](#) も参考とし、確実に実施してください。

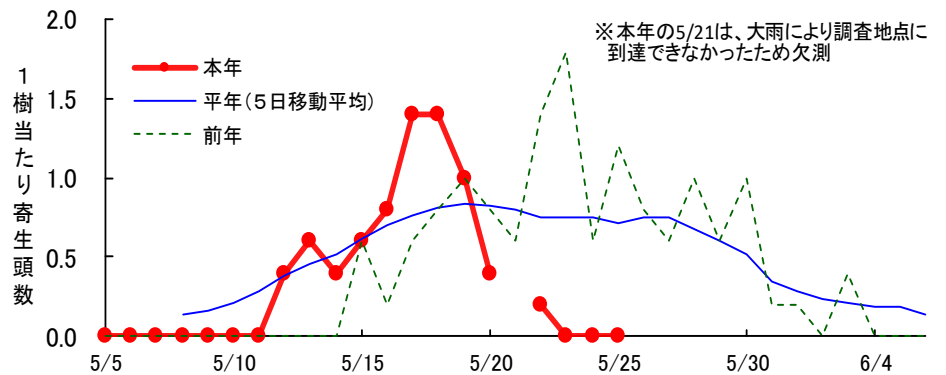


図 カキノヘタムシガ成虫見取り調査結果(調査結果 岐阜市木田)

モモせん孔細菌病

本病は病原細菌により、枝、葉および果実に発病します。枝での発病は、春型と夏型の病斑があり、春型は開花期から落花期にかけて結果枝の表面に発生します。結果枝にある病斑から5月から6月にかけて、病原細菌が風雨により葉や果実に拡散します。葉では、最初、カスリ状に白っぽくなり、のちに褐変し、穴があきます。果実では初め褐色の小斑点が生じ、果実の肥大にともない大きな病斑となります。本病によって、果実が腐敗することはありませんが、見た目が悪く、品質は大きく低下します。

ほ場内をよく観察し、本病の発生に注意してください。また、以下の対策により本病の防除を徹底してください。

- ①発病枝（春型枝病斑）や新梢葉の発病部は、見つけ次第除去する。
- ②幼果は本病に感染しやすく、落果の原因になるため、早めに袋かけを行う。
- ③防風ネット等による防風対策を行う。
- ④薬剤防除を行う場合、散布ムラのないよう丁寧に行う。



発病したモモせん孔細菌病

6月～8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 5月27日発表)

向こう1か月の気温は平年より高く、降水量及び日照時間は平年並の見込みです。平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病害虫防除所
トップページ
QRコード